



まえがき

はじめましてこんにちは！Pタグです。
6冊目の個人誌となります。

今回は、暑子ちゃんという巨大な女の子と、
彼女が訪れた街の人々とのお話です。

思えば、暑子ちゃんの初登場は2021年の7月でした。
あの時は、暑子ちゃんのジュースに浮かぶ艦船が
ストローで吸い上げられる単発ネタでしたね。
当時は、名前も決まっていなかった。
とにかく暑がりという設定で、
真冬でも半袖を着てひたすら「あついあつい」と
言ってるので、暑子(あつこ)ちゃんにしようかと
決めたところ、案外しっくりきたので、
それが今に至ります。

アンニュイな感じで、あまり悲壮感を与えずに、
淡々と目下の小人や街を平らげたりするのが
暑子ちゃんの魅力です。
そんな暑子ちゃんの活躍をお楽しみください。

一部スカ描写ありますので、苦手な方はご注意ください。
では、どうぞ～



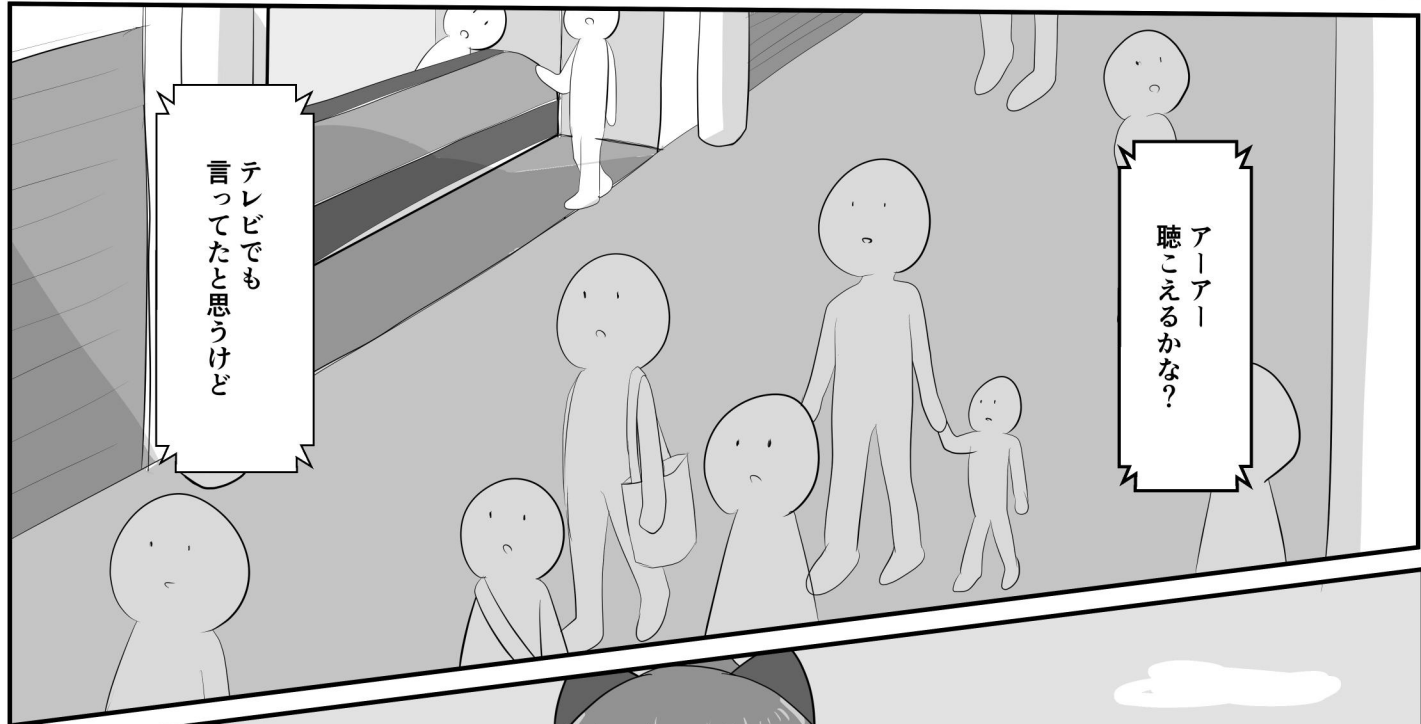
ども、
おじゃま
しまーす…

さて…
この街で合ってるかな



周波数変換器を
使って…

えーと…
普通に喋っても
みんなには
聞こえないよね…



テレビでも
言ってたと思うけど

アーアー
聴こえるかな？



おめでとう
ございます

この街のみなさんは
被験者に選ばれました

これから皆さんには
しばらく私の胃の中で
生活してもらおうこと
になります

いざという時に
私の体内を
避難所として
使えるかどうか…
という実験みたいです

もちろん、
逃げちゃダメだぞー